

て走ることから、CO2はゼロで、排出されるのは「水だけ」。また、非常時には給電機能を持ち、約1週間分の電気を供給することができる。当社では、北九州市のスマートシティを視察時に燃料電池車に試乗、その良さを実感し量販時の予約をしていた。その結果、県内では埼玉県、銀行に続いての納車となった。



世界のスカウト運動の最大の教育イベント「第23回世界スカウトジャンボリー」が7月28日から2週間、山口市阿知須のきらら浜で開催された。4年に1度の開催で、日本での開催は44年ぶり2回目。155の国と地域から33,742人のスカウトが参加した。日本からも6,574人、埼玉県からも389人のスカウトが参加した。県内のスカウトたちが多くの出費をしないで参加出来るようにするため、ボーイスカウト育成会では募金集めを実施、当社も中心となって支援者づくりを行った。



10月12日（体育の日）に当社が指定管理を行っているさいたま市大宮武道館で『第4回デコッパ卓球選手権』が行われた。障がいのある人もない人も混ぜこぜで、デコレーションしたスリッパで卓球を楽しむもので、ラリーが長いチームが勝ちという心優しさをはぐくむ催しだ。障がい者支援を行っているクッキープロジェクトが主催するもので、大宮武道館では、昨年より体育の日の催しとしてバックアップしている。

人も混ぜこぜで、デコレーションしたスリッパで卓球を楽しむもので、ラリーが長いチームが勝ちという心優しさをはぐくむ催しだ。障がい者支援を行っているクッキープロジェクトが主催するもので、大宮武道館では、昨年より体育の日の催しとしてバックアップしている。



10月24日（土）小川町にある民有林『イーリスの森』の枝打ち作業を、当社社員とその家族20名で行った。朝7時に大宮を出発、9時に小川町の埼玉伝統工芸館駐車場で埼玉県農林公社職員と待ち合わせ、山を登る。公社職員の指導で枝打ちが行われたが、ヒノキは急勾配に植えられており、身体を支えながらの作業になった。『イーリスの森』は、埼玉県・埼玉県農林公社と『埼玉県森林（もり）づくり協定書』を締結し、毎年、植林や草刈り、枝打ちなどを行っている。



毎日興業株式会社
 本社・浅間町オフィス
 さいたま市大宮区浅間町2-244-1
 管理センター・桜木町オフィス
 さいたま市大宮区桜木町2-292
 東京オフィス
 東京都文京区小日向4-2-8
 三井生命文京小日向ビル8階
 お問い合わせ
 電話：048-642-1238（代表）
 FAX：048-642-5216
 Email：soumu@mainichikogyo.co.jp
 ホームページもご覧ください。
<http://www.mainichikogyo.co.jp/>



毎日興業の社会活動 CSRレポート

発行
 毎日興業株式会社
 総務グループ
 TEL 048-642-1238
 FAX 048-642-5216
 soumu@mainichikogyo.co.jp



写真提供 大宮アルディージャ

障害の有無を問わずとも大宮アルディージャを応援しようと、NACK5スタジアム大宮で7月12日に行われたファジアーノ岡山戦で「手話応援」が行われた。手話応援実行委員会（実行委員長：田部井功社長、事務局：毎日興業桜木町オフィス）が手話応援デーとして毎年行っている企画で、今回で7回目。過去最高の1,825名が手話応援席を陣取り、この日限定のTシャツを着て、応援歌「愛してるぜWe are ORANGE」の大合唱。両手いっぱいを使った手話で大宮を応援した。応援団には、オレンジ・サポーターズ・プロジェクト、埼玉ご当地ヒーローズの「家計お助け銭隊FPL

ンジャー」やボーイスカウト埼玉県連盟、武蔵丘短期大学エアロビクス部マリリンズ、埼玉福祉専門学校生徒らが中心となり、応援団とサポーターが一体となってスタジアムを盛り上げた。手話応援啓発ブースでは、大宮ろう学園のPTAと生徒、手話ダンスサークル手をつなごう会、手話パフォーマンスSign、クッキープロジェクトなどが、初心者でも手話で応援できるように練習会を実施した。企業、行政、学校、NPOなど団体が手話応援実行員会に集まり、企画し、200名を超えるボランティアが参加してこのイベントが行われている。

index	
企業・学校・NPO・行政等との協働で障がいのある人もない人も一緒に	10年間善意重ねてアルミ缶集めて車イス寄贈 復興支援 東松島サッカーフェスティバル支援 ふじみ野市立市民交流プラザの取組み
手話応援	ボーイスカウト 世界ジャンボリーへの支援
手話応援写真	さいたま市大宮武道館の取組み 埼玉の森を守るために
	燃料電池自動車MIRAI



2005年8月31日からアルミ缶の回収を始め、2015年2月15日に約10年かけて目標を達成。さいたま市社会福祉協議会（会長：清水勇人さいたま市長）に車いす1台を寄贈した。これは、使用済みのアルミ缶を回収し、2万1千缶を集めると車いす1台と交換できるジャパンビバレッジの「エコ&ハローキャンペーン」を活用したものだ。社員が、家で飲んだビールや炭酸飲料のアルミ缶を洗って会社に持って来て、集めたもので、地道な活動が小さな一つの成果をあげた。



『東松島サッカーフェスティバル』は、東松島市サッカー協会が主催し、市内と、震災の時に支援してくれた地域の少年サッカーチームとの交流を目的に行われている。本年は8月1日・2日に東松島市鷹来の森グラウンドで、県内外24チームが集まり開催された。復興支援への取組みが縁

で、「浦和学院旗・毎日興業杯争奪東松島サッカーフェスティバル」としてお手伝いすることが出来た。



当社が指定管理を行っているふじみ野市立市民交流プラザでは、ふじみ野市のゆるきゃら“ふじみん”のタオルやボールペン、缶バッジを作り受付で販売、その収益をふじみ野市を通じて東日本大震災復興支援として贈っている。また、毎年「フクトピアチャリティフェスタ」を開催し多くの市民が参加、そこで行われるバザーや募金箱での収益を復興支援のために贈っている。本年は10月18日に開催し、収益104,143円を贈った。



次世代自動車“MIRAI”を導入した。MIRAIは圧縮水素を燃料とする燃料電池自動車（FCV）。一充填当たり最長約650キロメートル走行でき、酸素と水素の化学反応によって生まれる電気を使っ